

あけましておめでとうございます。

服部新聞を読んでいただきまして、ありがとうございます。初めて新聞を発行してからももう直ぐ二年になります。その間勉強会の開催（昨年二月と七月）も出来、いろんな意味で、皆様に木材の事をお知らせ出来たのではないかと考えています。我々材木屋をはじめ、建築に携わる全ての者が、お施主様に対して本当の事を伝える事が出来ればもっと素晴らしい住まいがきっと出来上がるのではないかと考えております。

昨年は建築基準法の間違った見直し、原油価格の高騰、食品偽装の発覚、防衛省の不祥事の発覚等色んな出来事があった年でした。今年こそ良い年になることを祈願しております。

今年から年賀状を辞めましたことをお許し下さい。服部新聞を年賀状の代わりにさせて頂きたいと思っております。

素晴らしい法話を伝えたい



新年号に相応しい記事を最初にご存知のうちに書かせて頂きます。昨年の11月のお寺での素晴らしい法話を紹介させて頂きます。その法話の内容は飛騨高山に住んでいた中村久子さんの話でした。（左記の写真が中村久子さんです）

皆様はヘレンケラーをご存知でも中村久子さんの事をご存知の方は少ないと思います。又私もこの法話を聞くまでは全く知りませんでした。お坊様は最初に彼女の生い立ちを説明し、そして色んな我々が学ばなければならない事の話をして頂きました。彼女は1897年岐阜県の今の高山市に生まれそして三歳の時、特発性脱肛にかかり、今日赤病院で両手両足を切断しました。そしてだるま娘の看板で興行界に入りました。その後、弟や母との死別、また結婚と出産、夫との死別、再婚、仕事の苦勞と幾多の苦難の中に生きぬき、書道家の沖六鳳氏に会い書の指導を受け、また座古愛子さんに出遇って生きる方向を見つけて努力精進し、1934年哲学者の伊藤証信・朝子夫婦に見い出され、興行界から身を引いたそうです。

そして1937年41歳の時有名なヘレンケラー女史と出遇いました。その時ヘレンケラー女史はもちろん目が見えないので中村久子さんを手で触るのですが、手も足も無い彼女に、**ヘレンケラー女史は“私より不幸な、そして偉大な人”**と中村久子さんを褒め称え励ましたと。

彼女は四人の男性と結婚し二人の子供を授かったのですが、一番悔しい事は自分の子供を自分の手で抱きしめられない事だと仰っていました。とお坊さんはお話していました。

そして私が一番感銘を受けたのは、晩年彼女が言った言葉『**この体に生まれてきた事が私の本当の幸せなのです。この体で育ったことでどれだけ大勢の人達と係わり合いが出来、そして凄く充実した人生でした**』です。凄く感動しましたし話を聞きながら思わず涙が出ました。

我々人間は煩悩の世界に生きています。たいがいの人間は五体満足です。しかし五体満足な人間とは凄く勝手な生き物です。喧嘩をしたり戦争をしたり、凄く勝手な生き方をしています。私も勝手な生き方をしていると思います。しかし私が中村久子さんみたいになることは不可能ですが少しでも近づける様、生活態度等も是非見習いたいと思います。

服部新聞は正直に『木材の本当の話』を伝えるのが仕事ですので、法話で学んだ事を念頭に記事を書きたいと考えております。

服部雅章は普通の人間です。しかし49歳になったせいか、お寺の法要を聞きに行くのが、楽しみになってきました。と言う歳になった事を幸せに思っています。

もはや安くて良い材は無い

優良な材質の木材資源は、減ることがあっても増える事は有りません。又色々なジャンルのお客様から、もう少し安くて目新しい材はないのかと、ちょくちょく聞かれるのですが、もはやそんな材は、有りません。日本にかなりの量が輸入されている材の中でも、少し等級とか、サイズが変われば、必要とされている方に供給出来なくなって来ているのが現実です。

例えばベイマツですが、主に建築の構造材の梁に使われている並材と呼ばれる物は供給できますが、建具に使われる材木屋の専門用語でピーラーと呼ばれる材では、一番良い産地の材を手に入れるのは、非常に難しくなっています。

厳密に言えば本物のピーラーと、現在多く流通している目細の米松（カナダ産）とは、違うのです。本物のピーラーはアメリカ本土産のベイマツの目の細かい最高の材を言うのですが、この材は、製材したときは、凄く黄色っぽい色をしています。そして時間が経過して、日焼けしても上品な少し赤み色を帯びた黄色になるのです。一方で今流通しているカナダの目細材は、一般に木材業者はピーラーと呼んではいますが、日焼けすると、少し赤っぽい色に変わります。しかしそれが現在の流通している材のスタンダードになっています。



上の写真が本当のピーラー（アメリカ本土産の目細の米マツです）です。

プロの材木屋でも知らない事はあります。

雲スギ（中国スプルース）のまな板を2～3年ほど前まではスーパーマーケット等で見かけましたが、最近見なくなりました。当初私は何故見なくなったかは、あまり気にもとめていませんでした。この間まな板を主体に作っている木工所の方からお電話を頂き、服部さん所でアラスカ産のスプルースでまな板の原板を供給してくれないかとお話がありました。実は5年程前まで、刑務所でまな板を作っている所に納めてきたのですが、何分お値段が合わず辞めてしまいました。又辞めてしばらくすると雲スギ（中国スプルース）のラッピングしたまな板が堂々スーパーで売られているのを見たとき、価格的に合わないから辞めて良かったと思っていました。しかしお電話頂いた木工メーカーの社長さんにお聞きすると雲スギ（写真→）で出来たまな板は、当然水に晒されます。使った後直ぐに乾かさないと青かびが発生して消費者様からクレームが発生するから、まな板には、雲スギは向かないのです。とお聞きしました。確かにプロの材木屋の見た所謂木味をアラスカ産と中国産を比較したとき、その社長さんが仰った事はなるほどと理解出来ました。



スプルースの一番良い産地はアラスカ産材です。色も白く水に濡れても雲スギみたいに直ぐにはアオカビは発生しません。

ところで建築に多用されるホワイトウッドの集成材の管柱も、壁内結露を生じたら、雲スギのまな板と同じ様になり、酷くなれば、当然自然に腐ります。そんな物を多用している昨今の建築物は、本当に消費者目線に立った家でしょうか。又大手ハウスメーカーはWウッドを凄く聞こえの良い名前で『シャーウッド』と呼んで家を販売していますが、本当にそれが消費者目線に立った家でしょうか。私は凄く疑問に思います。

日本には凄く素晴らしいスギ・ヒノキがあるのに何故積極的に使わないのでしょうか非常に疑問に思います。

家作りの問題点(プレカット)とスギ・ヒノキ

プレカットとは、建築用の構造材を現場で使用しやすいサイズや形にあらかじめ工場加工しておくことです。この技術により現場での作業を軽減することができ、建築期間を短縮したり、人件費の抑制につながりました。そしてプレカットにより、これまで大工さんが手作業で加工していた部材を機械で加工することにより、一定以上の品質を保つことができるようになりました。最近では、木造軸組工法によって家を建築する住宅メーカーや工務店の多くが殆どプレカットを利用しています。しかしプレカットには大きな弱点があります。それは柱を面でコンピューターで読んでいる為に、少しでも曲がっていれば使えないのです。

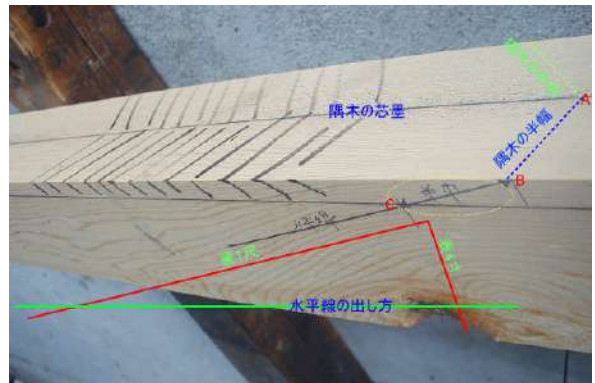
その点大工の墨付け(写真一番上の右)の場合柱の芯と芯を読んでいるために少しの曲がりも、建て方に影響せず素晴らしいスギ・ヒノキを使った家が堂々出来るのです。

スギ・ヒノキは今や人工乾燥技術の進歩で乾燥材が多く流通するようになりましたが、それでもWウッドの集成柱と比べれば多少の曲がり発生しやすいのです。

その理由は日本の国土の場合スギ、ヒノキの立っている場所は斜面が多い為にどうしても芯が柱の元と末の真ん中に中々こないのです。

右の写真はヒノキの原木の木口面ですが、元と末どちらも同じ位置に来ていたら曲がり非常に発生しにくくなります。人工乾燥していても木は必ず立っている姿に戻ろうとする性質は、人間の勝手になりません。(人工乾燥している柱は元の立っている姿に戻るのに時間がかかります。従って建てつけが終われば少し位戻ろうとしても大きな問題は起こりません) 現実にプレカットの無い時代に建った旧家は凛として家が建っているでは有りませんか。

下の写真はスギ・ヒノキの立っている斜面の写真ですが、木の立っている姿がほんの少し曲がっているのが解かるかと思います。木と言う物はこう言う物なのです。



これから日本人は、多少の曲がりがある柱でも使えるプレカット技術が発明できれば、凄く良い家がどんどん建つし、地球温暖化対策にも繋がると思います。

スギ・ヒノキを使うことが、又化石燃料の節約にもなり、日本の安全保障対策にも繋がると思います。

これからの頭の柔らかい若者に面を読むプレカットではなく、使用木材の両端の芯を読むプレカット技術を是非開発して頂けたら嬉しく思います。

左の写真は山自身が凄く立っているのが解かると思います。山の斜面の急峻な立ち木は少し曲がっています。

木は必ず立った姿に戻る性質があります。『振じれている立ち木から製材した板は必ず振じれます。又曲がった原木から無理して製材した製材品も乾燥が仕上がった時点で狂いが生じます』

欠点がある事が、ハンデではございません。用途によって使い分けすれば捨てる物が無いのが、無垢の天然素材の木です。その仕事をするのが木材業者の役目です。

試される本当の民主主義と日本人

極一部の人しか知らない話ですが、財務省が日本の国債を外国人に売るために財務諸表を公表したのですが、その内容が一般の日本人向けに公表したのと違うのをご存知ですか。財務省発表の資料が対外国人向けの物と日本人向けの物が有るのです。その中身は日本人向けの資料は、国際の格付けの危険度を高く表示し、対外国人向けの格付けは安心度が高い表示になっています。所謂ダブルスタンダードです。

国は公債残高がこれ以上増えると、債務超過（デフォルト）に陥る可能性があるので消費税の増税等の事を旧大蔵省出身の国会議員所謂族議員、を通じて、シュプレヒコールを上げていますが、何故外国人投資家は積極的とは申しませんが日本の国債を買うのですか。安全だと思っているからでは有りませんか。その当たりの事をはっきりしてくれなかったら、我々庶民は国に対して何を信じたら良いか非常に危惧を感じます。

又建築基準法の改正にしても、確かに官報で公示はしていましたが、国民全員に対して消費税並みの論議の公開をしてきたのか、はなはだ疑問に思います。 私事で失礼しますが、今回の改正もしくは改悪？で昔お付き合いのあった材木屋の社長が、急激に夏場以降の住宅着工が大幅に減った事により倒産しました。本当に身近の問題になって来ていると思います。

ところで本年三月末で切れる揮発油税の暫定税率がどうなるのかが、我々庶民にとって今年が一番大きな問題でしょう。原油価格が100ドル位で高値安定をすれば少なくともレギュラーガソリン1リッター当たり165円前後になると思います。ここまで上がると、庶民に対して凄い負担となるばかりか、企業活動もにぶり、全ての国民に負担を押し付けるようになると思います。

今回期限切れになる揮発油税は法律に暫定と明記されているのです。暫定とは期限が切れれば、法律は失効するのです。失効すれば揮発油税は約25円が値下がるのです。【165円→140円】

この事に絡んで民主党は25円分を一般財源化する代わりに高速道路を無料にしたらと参議院選挙のマニフェストに書いて有ったと記憶しております。自民党、官僚達はそのまま暫定税率を維持して、まだまだ道路を作る政策だと聞いています。よく考えて下さい、仮にガソリンが1リッター当たり200円になれば、今ほど車を利用しなくなると思います。又ガラガラの高速道路を作っても良いのでしょうか。

【私は以前、自民党支持でしたが、今は政策本位で選ぶようになっていきます。】

揮発油税は道路特定財源です。直接国民に対しての影響は一般財源と違って影響は比較的少ない特別会計から出ています。

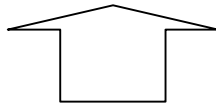
創業80周年

本年は2008年です。祖父服部猪三郎が、1928年に大阪の今の大正区千島町にて、桐屋の材木屋『池田商店』から独立して80年になります。仕入先、得意先、外注先、金融機関、全ての関係者の方々にお礼を表したいと思います。全ての方面の方々に、お世話になったからこそ、現在の服部商店があります。本当にありがとうございます。

今後の方針、今年の抱負等

今年の3月22日は、私の父が亡くなって五年になります。中国の言葉で守・破・離と言う言葉が有りますが、亡くなってから三年間は父親の商売のやり方を真似する事だけでした。それは守に相当します。そして四年目以降少し父親から教わった事を少し変えようと思い行動しています。それが離に相当します。本年も大幅に会社自身を変えるのではなく、自分自身の私生活を含めてまず少し変えてみて、いずれ父親から離れる為のステップの一年にしたいと思っています。

【守・破・離の一つの事を三年計画で考え行動しています。】



緊急アンケート

FAX番号072-422-8577

勉強会開催のご案内

今回は大阪市港区の藤本木工所の社長様が主催されている木工塾とジョイントにて行います。建築士以外の方も多数参加されると聞いております。

- Q 1、 服部商店第三回勉強会（原木の製材）の催しを平成20年2月2日の午前10時より行います。
参加できる方は、ご連絡下さい。

はい

いいえ

- Q 2、 Q 1 ではいとお答えした方に。

参加される人数を御知らせ下さい。

_____名

御社名	
ご担当者名	
電話番号	
FAX番号	

株式会社 服部商店
大阪府岸和田市木材町16-1
TEL 072-438-0173
FAX 072-422-8577

担当 服部雅章

服部新聞一月号は来年一月二十日前後に発行します。其の時にもう一度ご案内を差し上げます。